

琉球大学学術リポジトリ

西表実験所35年の歩み ー写真集ー 退官記念

メタデータ	言語: 出版者: 新本光孝 公開日: 2009-12-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新本, 光孝, Aramoto, Mitsunori メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/14387

西表実験所35年の歩み
— 写真集 —
退官記念



平成 20 年(2008) 3 月吉日
琉球大学熱帯生物圏研究センター
新本 光孝

はじめに

創設当初から勤務した西表実験所を離れるにあたり、所員及び農学部の先生方からこれまでの記録をまとめて残してはどうかとの話しがあったのは4月に入ってからでした。草創期から今日まで熱帯農学研究施設、そして西表実験所の研究基盤の整備にかかわってきた者として、当然のこととしてお引き受けすることにしました。

しかしながら当初から予想されていたことですが、退官間際になるといろいろの仕事におわれて、写真の整理、とくに年月日の記録、構成内容に時間を十分にさくことができず、単純、粗雑な形になってしまいました。

西表実験所の写真については、「附属熱帯農学研究施設20年の歩み」（平成3年（1991）12月）に8ページ16葉にまとめましたが、今回ははるかに多く72ページ292葉の膨大なものとなっています。

民宿の一室を借り上げて研究室、事務室、宿舎に兼用してスタートした「民宿時代」、車庫に本拠地を置いて活動をした「車庫時代」、そして待望の研究・宿泊棟、研究圃場を整備して本格的に取り組んだ「発展期時代」等の写真をみて、一葉一葉がつい昨日のように思われ感慨深いものがありました。

この「写真集」は、写真記録で本実験所35年の歩みを「ドキュメンタリー」としてみることができますが、加えて写真の有する記録性と視覚に訴える現実感、別冊の「資料編」とは異なる資料価値があるものと思います。

最後に編集にあたり、貴重な写真を提供していただいた竹富町役場総務課、八重山観光フェリー、安栄観光、職員各位、資料の整理にご尽力いただいた堤ひとみさんに深く感謝するとともに、本写真集が西表実験所の将来への発展に少しでも役に立てばこれ以上の喜びはありません。

平成20年（2008年）3月吉日
森林環境資源研究領域
教授 新本 光孝

目 次

はじめに	
開 所 式	1
I 港・船舶の移り変わり	
1. 石垣港の移り変わり	3
2. 船浦港の移り変わり	5
3. 船浦港から上原港への供用変え	6
4. 船舶の移り変わり	
1) 八重山観光フェリー	7
2) 安栄観光	8
II 車両と調査船の移り変わり	
1. 車両	9
2. 調査船	11
III 建物	
1. 車庫	12
2. ガラス室	13
3. 教育研究棟・1号館	14
4. 教育研究棟・2号館	17
5. 宿泊棟	18
6. 農用機械格納庫	18
7. 職員宿舎	20
IV 道路・ダム	
1. 道路	21
2. ダム	23
V 研究圃場 — 昭和57年(1982)～同59年(1984) —	24
VI 主要な研究	
1. プロジェクト研究	
1) 熱帯樹林地の開墾に伴う生態系の変化に関する研究	28
農林水産省特別試験研究費 — 昭和52年度(1977)～同57年度(1982) —	
2) 温帯・熱帯地域における生物生産の比較農学的研究	31
— 焼畑農耕とその常畑化に関する農地生態学的研究 —	
文部省科学研究費特定研究 — 昭和54年度(1979)～同56年度(1981) —	
3) 熱帯地域の森林資源回復に関する研究	34
文部省科学研究費(一般研究B) — 昭和61年度(1986)～同63年度(1988) —	

2. 個々の研究	
1) 熱帯果樹の導入・栽培試験	36
2) 熱帯系桑の導入・栽培試験	37
3) 熱帯牧草の導入・栽培試験	38
4) 熱帯資源植物導入・栽培試験	38
5) 食用カンナ導入・栽培試験	39
平成 11 年度沖縄県産業祭り出展 — 平成 11 年(1999) 10 月 —	
6) ハイビスカス導入・栽培試験	43
7) 昆虫相	43
8) マングローブの増殖試験	44
VII 主な視察・来訪者	45
VIII 主な会議・セミナー等	
1. 九州地区国立大学事務局長協議会 — 昭和 54 年(1979) 5 月 —	56
2. 九州地区国立大学農林水産系学部長協議会 — 昭和 58 年(1983) 11 月 —	57
3. セミナー・研修	57
IX 記念式典並びに祝賀会	
1. 1 号館 — 昭和 51 年(1976) 5 月 —	59
2. 2 号館 — 昭和 63 年(1988) 5 月 —	59
3. 創設 20 周年記念 — 平成 4 年(1992) 2 月 —	61
X 学生実習	
1. 昭和 57 年 7 月第 1 回熱帯農学総合実習	63
2. 昭和 60 年代の熱帯農学総合実習	64
X I 琉球大学学報にみる西表実験所	66
編集を終えて	72

開所式



現地西表島上原公民館において開所式を行った。 — 昭和47年(1972)4月26日 —



琉球大学農学部付属熱帯農業科学研究施設の看板が始めて披露された。

— 昭和47年(1972)4月26日 —



首里キャンパス風樹館に本部を置く。 — 昭和47年(1972)5月 —



上原館の1室を借り上げ事務所に使用した。
— 昭和47年(1972)5月 —



民宿旧みはらし荘を借り上げ移転した。
— 昭和49年(1974)4月 —



事務室、研究室、及び宿舎に使用した。
— 昭和49年(1974)4月 —



研究室兼事務室で概要説明を受ける金城農学部長
(中央) — 昭和50年(1975)5月 —

I 港・船の移り変わり

1. 石垣港の移り変わり



昭和48年(1973)頃



昭和50年(1975)頃



昭和50年(1975)頃



昭和50年(1975)頃



昭和50年(1975)頃



停泊中の鹿島丸 — 昭和50年代後半 —



平成 5 年(1993)の頃



平成 8 年(1996)の頃

写真資料を提供して頂いた八重山観光フェリーの
花城専務取締役（右側）



平成 15 年(2003)の頃



平成 15 年(2003)の頃



供用開始の日 — 平成 19 年(2007)1 月 31 日 —



供用開始の日 — 平成 19 年(2007)1 月 31 日 —

2. 船浦港の移り変わり



昭和 47 年(1972)頃の船浦港



昭和 47 年(1972)頃の船浦港、立て看板が立っていた。(海側より)



昭和 47 年(1972)頃の船浦港、立て看板が立っていた。(陸側より)



昭和 50 年代後半の船浦港



昭和 60 年代の船浦港

3. 船浦港から上原港への供用変え



平成 18 年(2006)3 月 27 日供用開始された上原港

— 資料提供 竹富町役場総務課 —



テープカットで供用が開始された。 — 平成 18 年(2006)3 月 27 日 —

4. 船舶の移り変わり

1) 八重山観光フェリー — 八重山観光フェリー(株) 写真提供 —



船浦・石垣航路の住吉丸 — 昭和47年(1972)8月 —



船浦港を出港する住吉丸



船浦港から出港するマリンスター

— 昭和54年(1979)7月 —



船浦～石垣航路に就航した鹿島丸

— 昭和58年(1983)7月 —



 **八重山観光フェリー(株)**

上原～石垣間に就航しているサザンクロス号 — 平成20年(2008)2月 —

2) 安栄観光 — (有) 安栄観光写真提供 —



昭和 50 年(1975)頃の石垣島安栄観光事務所前



あんえい号



お世話になった故森田安満船長

— 昭和 62 年(1987) —

0980-83-0055
FAX.0980-83-0044

国土交通省認可一般旅客定期航路免許番号第34号・沖縄県知事登録国内旅行業第2種121号

(有) 安栄観光
ANEI KANKO

〒907-0012 沖縄県石垣市美崎町1番地 石垣港離島ターミナル内
旅客カーフェリー(貨物事務所)：TEL・FAX.0980-83-5891
(社)全国旅行業協会会員 国内旅行業取扱管理者：前野郁美

上原～石垣間に就航している安栄丸 — 平成 20 年(2008)2 月 —

II 車両と調査船の移り変わり

1. 車両



初代ジープ — 昭和40年代後半 —
後方の建物はみはらし旅館（教官宿舎に指定され
お世話になった。）



林内奥地を走る。



二代目ジープ — 昭和50年代 —



用地区分調査に活躍した。



三代目ジープ — 昭和59年(1984)2月 —



来客対応する星野施設長 — 昭和60年(1985)2月 —



学生実習や来客対応に活躍したマイクロバス
— 昭和60年(1985)2月 —



テラノも学生実習や来客対応に活躍した。
— 昭和61年(1986)2月 —



活躍した2代目マイクロバス
— 平成10年(1998) —



活躍中のマイクロバス — 平成20年(2008)2月 —



活躍中の乗用車 — 平成20年(2008)2月 —



農作業機械 — 平成20年(2008)2月 —

2. 調査船



みやまⅠ世 — 平成3年(1991)3月 —



みやまⅡ世 — 平成20年(2008)2月 —

Ⅲ 建物

1. 車庫

施工：昭和 49 年(1974)～同 50 年(1975)



車庫用地の整地



竣工間近の車庫、表側より — 昭和 50 年(1975)2 月 —



竣工間近の車庫 — 昭和 50 年(1975)2 月 —



竣工した車庫、裏側より — 昭和 50 年(1975)3 月 —



民宿みはらし荘より移転し、車庫を研究室および事務室に使用 — 昭和 50 年(1975)4 月 —



車庫内で施設概要の説明 — 昭和 51 年(1976)4 月 —

— 車庫時代に入る —

2. ガラス室



ガラス室の基礎工事 — 昭和55年(1980)1月 —



ガラス室の鉄骨組立て — 昭和55年(1980)2月 —



竣工間近のガラス室 — 昭和55年(1980)3月 —



2棟目の竣工したガラス室 — 昭和56年(1981)3月 —



圃場貯水タンクより見たガラス室 — 平成20年(2008)2月 —

— 発展期に入る —

3. 教育研究棟 1号館

施工：昭和50年(1975)～同51年(1976)



1号館建設予定地



1号館現場説明



施設部による工事説明



1号館の整地



1号館の整地



資材の搬入が始まる。



基礎工事が始まる。



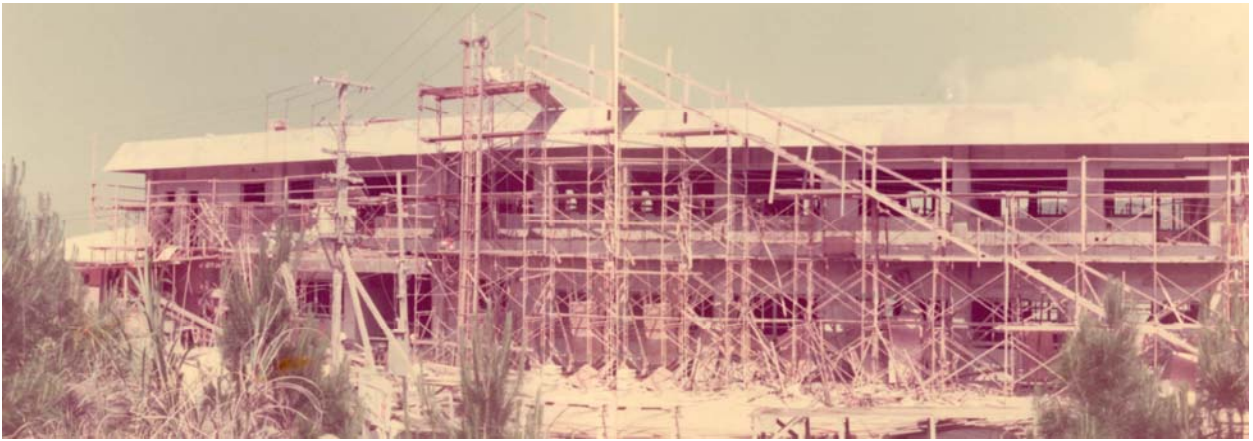
鉄筋工事



建築中の1階工事



2階の建築工事



棟上げ



竣工間近の1号館 — 昭和51年(1976)2月 —



竣工した1号館 — 昭和51年(1976)3月 —

4. 教育研究棟 2号館

施工：昭和 62 年(1987)～同 63 年(1988)



建築中の 2号館



竣工間近の 2号館、赤瓦の工事が急ピッチで進む。



竣工した 2号館 — 昭和 63 年(1988)3 月 —



竣工した 2号館 (左)、右は 1号館

— 昭和 63 年(1988)4 月 —



2号館内の標本室 — 昭和 63 年(1988)4 月 —



2号館の講義室 — 昭和 63 年(1988)7 月 —

5. 宿泊棟

施工：平成7年(1995)～同8年(1996)



地鎮祭会場 — 平成7年(1995)7月 —



宿泊棟の地鎮祭 — 平成7年(1995)7月 —



工事の安全を祈願し鍬入れを行う。

— 平成7年(1995)7月 —



総定員50人の宿泊棟を竣工

— 平成8年(1996)3月 —

6. 農用機械格納庫



竣工した農用機械格納庫 — 昭和63年(1988)3月 —



竣工した農用機械格納庫に連結した作業管理棟

— 昭和63年(1988)3月 —



教育研究棟・宿泊棟の全景 — 平成20年2月現在 —

7. 職員宿舎

施工：昭和50年(1975)



職員宿舎用地の測量 — 昭和50年(1975)5月 —



職員宿舎の基礎工事 — 昭和50年(1975)5月 —



竣工間近の宿舎 — 昭和50年(1975)10月 —



竣工間近の宿舎 — 昭和50年(1975)10月 —



宿舎の竣工検査 — 昭和50年(1975)11月 —



竣工した施設長専用宿舎 — 昭和50年(1975)11月 —

IV 道路・ダム

1. 道路

施工：昭和 49 年(1974)～同 50 年(1975)



昭和 47 年頃の 208 林班用地入口付近
現在、左に教育研究棟 1, 2 号館が、右側に宿泊棟が建設されている。



竣工した 208 林班内の 1 期工事専用道路
— 昭和 50 年(1975)3 月 —



竣工した 2 期工事専用道路 — 昭和 51 年(1976)3 月 —



圃場内の道路工事 — 昭和 58 年(1983)9 月 —



圃場内の道路工事 — 昭和 58 年(1983)10 月 —



圃場内の道路工事 — 昭和 58 年(1983)11 月 —



圃場内の道路工事 — 昭和 58 年(1983)11 月 —



ガラス室、農用機械格納庫付近の舗装直前の状態
— 平成 3 年(1991)3 月 —



Y字型付近の舗装工事 — 平成 3 年(1991)3 月 —



舗装直後のY字型付近 — 平成 3 年(1991)3 月 —



208 林班用地入口付近の舗装工事
— 平成 3 年(1991)3 月 —



中央の分離白線も施して竣工した道路舗装
— 平成 3 年(1991)3 月 —

2. ダム



208 林班専用道路入り口付近のため池を利用して
灌水した。 — 昭和48年(1973)8月 —



ダムの基礎工事 — 昭和58年(1983)6月 —



水源地上流 — 昭和58年(1983)6月 —



貯水タンクの建設 — 昭和58年(1983)9月 —



完成したダム — 昭和58年(1983)11月 —



完成したダム — 昭和58年(1983)11月 —

V 研究圃場 — 昭和 57 年(1982)～同 58 年(1983) —



工事の安全を祈る地鎮祭



工事の安全を祈願する宮城学長



大木の伐倒作業



伐採作業が始まる。



伐採・倒木の処理作業



伐採木の集積



ユンボによる造成が進む。



伐採後の元地形



部分的に伐採木を集積



部分的に伐採木を焼却



造成が進む。



日に日に造成が進む。



日に日に整地が進む。



整地が進む。



上空から見た造成中の圃場 — 昭和58年(1983)4月 —



完成間近の法面および道路



竣工した5号圃場(左)と7号圃場(右)



圃場は礫が多く、苦労が続く 6号圃場



礫の除去作業 6号圃場



除去された礫、6号圃場



大きさは大、中、小とさまざまな礫



礫除去後の 6号圃場



研究圃場の土砂流出防護柵

VI 主要な研究

1. プロジェクト研究

1) 熱帯樹林地の開墾に伴う生態系の変化に関する研究

農林水産省特別試験研究費 — 昭和 52 年度(1977)～同 57 年度(1982) —

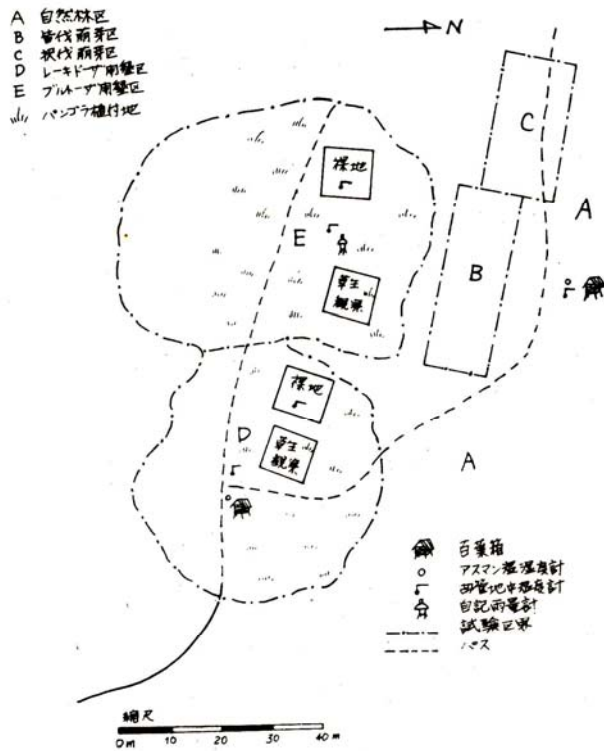


図3 生態系試験地要図



試験地を設定した自然林の林相



試験地の区画測量 — 昭和52年(1977)4月 —



立木払い下げ調査

— 昭和52年(1977)4月 —



用地内の土壌断面図



土壌調査中の大屋教授



ブルドーザーによる造成



レーキドーザーによる造成



レーキドーザー区、牧草植付け



牧草試験地を整備する新城技官



択伐区の内



皆伐区の伐採 5 年後の萌芽木



皆伐区の切株 — 昭和 52 年(1977)7 月 —

2) 温帯・熱帯地域における生物生産の比較能率的な研究
 — 焼畑農耕とその常畑化に関する農地生態学的研究 —
 文部省科学研究費特定研究 — 昭和 54 年度(1979)～同 56 年度(1981) —

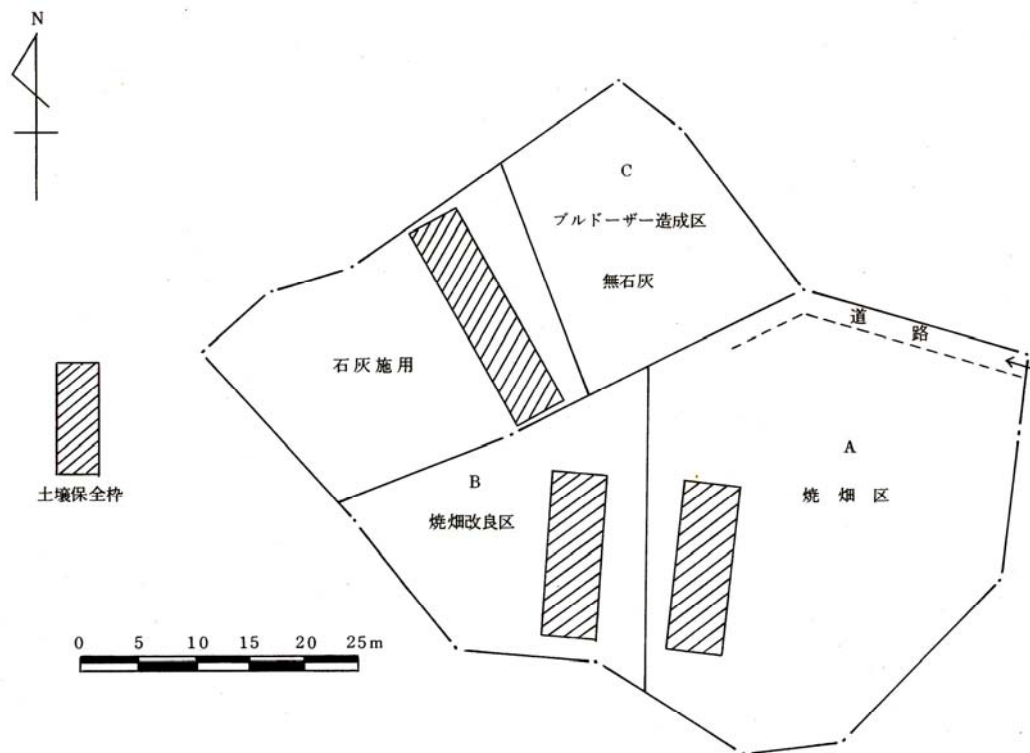


図1 西表試験地見取図



試験区設定のための林内踏査



伐採準備中のため下層植生を刈払う石垣長有さん



焼畑区の伐採をする石垣長有さん



伐採木を処理する石垣長治さん



伐採後、火入れ直前の試験区



傾斜下より火入れ



火入れ、焼却直後



火入れ、焼却後の調査



土壌流出試験区の造成



完成した土壌流出試験区



土壌班による調査



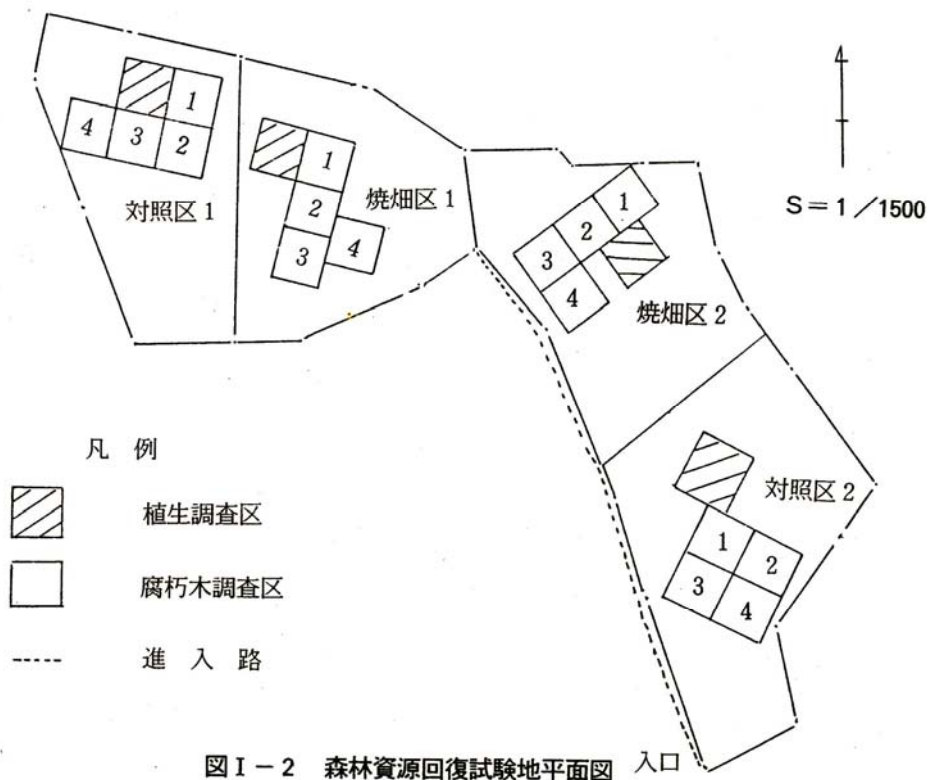
焼畑区の二次植生（左上）
土壌流出試験区とキャッサバ栽培（右）



焼畑区の2年後の二次植生

3) 熱帯地域の森林資源回復に関する研究

文部省科学研究費（一般研究B）— 昭和61年度(1986)～同63年度(1988) —



試験地入口の標柱



試験地の区画調査



火入れ直前の試験地



火入れ焼却を開始



焼却中



伐採後 2 年目の二次植生



対照区の伐採 20 年後の萌芽林



焼畑区の伐採 20 年後の萌芽林

2. 個々の研究

1) 熱帯果樹の導入試験・栽培試験



最初に導入された熱帯果樹ピタンガ

— 昭和51年(1976)3月 —



植栽する新城技官(左), 津嘉山技官(右)

— 昭和51年(1976)3月 —



熱帯果樹をサポートする津嘉山技官(左)、
新城技官(右)



自力開墾による早生温州みかん導入栽培試験

— 昭和54年(1979)6月 —



収穫直前の早生温州みかん

— 昭和54年(1979)6月 —



みかん園内に熱帯果樹植

— 昭和55年(1980)6月 —

2) 熱帯系桑の導入・栽培試験



桑導入園 — 昭和61年(1986)7月 —



桑の収穫調査桑導入園 — 昭和61年(1967)8月 —



食用桑 — 昭和63年(1988)5月 —



見事な桑園 — 昭和61年(1986)5月 —



桑からカイコへ — 昭和61年(1986)7月 —



カイコから繭へ — 昭和61年(1986)8月 —

3) 熱帯牧草の導入・栽培試験



牧草導入見本園 — 昭和 63 年(1988)5 月 —



品種別栽培試験 — 昭和 63 年(1988)5 月 —



品種別栽培試験 — 平成 2 年(1990)5 月 —



ギニアグラスの栽培試験

4) 熱帯資源植物導入・栽培試験



熱帯果樹育苗試験 — 平成 4 年(1992)6 月 —

シヨクヨウカンナ（食用カンナ）の栽培と開発利用

熱帯生物圏研究センター
熱帯生物圏研究センター
日本大学生物資源科学部

新本 光孝
津嘉山 健
小山 鐵夫

1. シヨクヨウカンナ？

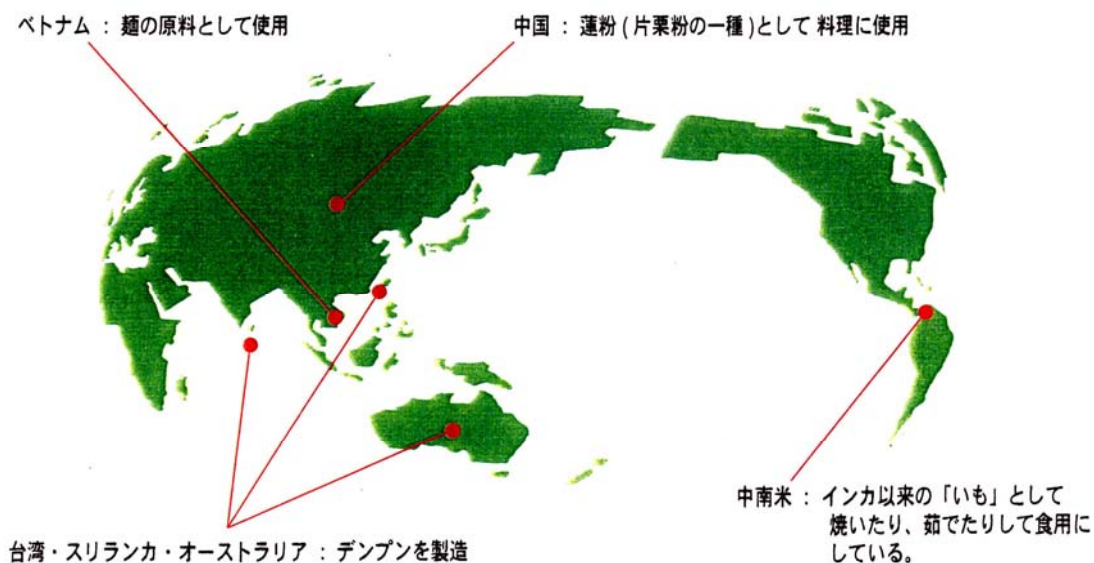
シヨクヨウカンナは観賞用の花カンナとは全く別で、根が肥厚して「いも」ができる種類です。花と茎の形は花カンナと似ていますが、葉は大きくてバナナのようなようです。花は橙赤色で5～6cm程度の大きさです。



分類学的には少数種に含まれ、中南米の *Canna edulis* の他にアジアで栽培されている *Canna speciosa* があります。

2. 現在どのように利用されているか

食用カンナの澱粉貯蔵組織は生物活性をもたないので、食用として極めて安全性が高く、しかも澱粉含有量が多いという特徴があります。



3.将来の開発利用の可能性

・ お酒の原料

良質の澱粉があり、アルコール発酵を阻害する成分が含まれていないことから、アルコール製造の原料に相当という化学分析の結果があります。

根茎を発酵させ、蒸留して得られた焼酎はまろやかで、カンナ臭が特徴です。繊維の多い皮部の除去法が開発されれば酒類飲料（カンナ酒）の原料として非常に良いと思われれます。

・ 食料素材

2で述べたように澱粉食料品の素材としても将来性があります。



Canna edulis 南米アルゼンチンより導入



Canna speciosa 台湾・南投県より導入



Canna indica 南米アルゼンチンより導入



南米アンデスより導入した現在調査中の食用カンナ



沖縄県産業祭り出展



大学展示コーナー



シヨクヨウカンナ説明



シヨクヨウカンナ展示風景



卓上展示



シヨクヨウカンナ導入園：3号圃場

— 平成10年(1998)7月 —



シヨクヨウカンナ導入園：3号圃場

— 平成10年(1998)7月 —



観賞用カンナ：3号圃場



カンナ酒用として注目されている。

— 平成10年(1998)7月 —



カンナ酒用として注目されている。

— 平成19年(2007)7月 —



自生種のダンドク：3号圃場

— 平成19年(2007)7月 —

6) ハイビスカス導入・栽培試験



導入園での栽培



導入園での栽培



導入園での栽培



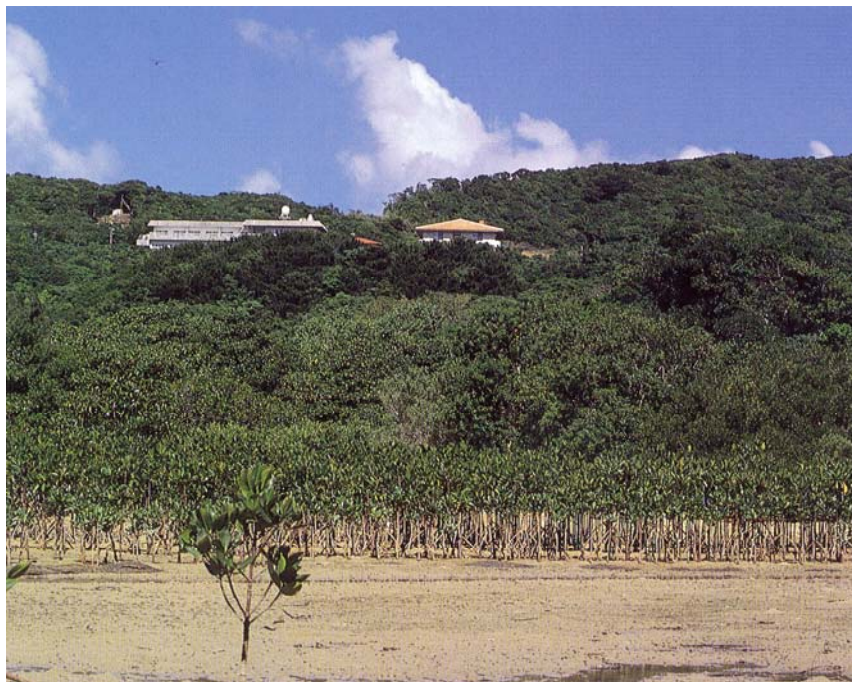
ガラス室近くでの栽培試験

7) 昆虫相



世界最大の蛾（ヨナグニサン）

8) マングローブの増殖試験



船浦湾試験地



ヤエヤマヒルギの胎生種子

VII 主な視察・来訪者



藍原林野庁長官 — 昭和52年(1977)2月 —



坂元沖縄開発政務次官 — 昭和54年(1979)4月 —



京都大学沢田学長記念植樹 — 昭和55年(1980) —



記念植樹を行う宮崎大学井上学長

— 昭和56年(1981)5月 —



参議院沖特委員御一行 — 昭和56年(1981)6月 —

左は喜屋武真栄議員、中央は伊江朝雄議員



記念植樹を行う宮城学長 — 昭和58年(1983)2月 —



日本林業技術協会猪野理事長
— 昭和 58 年(1983)3 月 —



概要説明を受ける檜崎北海道開発庁事務次官
— 昭和 61 年(1986)4 月 —



記念植樹を行う檜崎北海道開発庁事務次官
— 昭和 61 年(1986)4 月 —



沖縄開発庁坂元国務大臣が来訪された。
— 平成元年(1989)5 月 —



施設の概要説明を受ける坂元大臣
— 平成元年(1989)5 月 —



日本学術会議櫻井事務局長を浦内川軍艦岩へ案内
— 平成 4 年(1992)1 月 —



高良鉄夫元学長が本施設を視察 — 平成4年(1992)8月 —



鳩山文部大臣と施設職員 — 平成4年(1992)9月 —

鳩山邦夫文部大臣が視察 — 本学農学部附属熱帯農学研究施設を —

鳩山邦夫文部大臣が、九月三十日（水）西表島にある本学農学部附属熱帯農学研究施設を視察した。これは、県内の離島・へき地教育の現状と教育施設などの視察の一つとして行われたもので、文部大臣が県内離島を訪れるのは初めて。



▲ 記念植樹を行う鳩山邦夫文部大臣

鳩山邦夫文部大臣である日本最西南端「すま」などと絶賛。の与那国島の久部良小、「教育の国際貢献という観点から将来の期待の星で、いずれ組織拡大を図ったらどうか」と提言した。遺産の次期候補地に値



▲ 農学部附属熱帯農学研究施設職員と記念撮影（左から3人目が鳩山文部大臣）

琉球大学学報（第292号）



施設の概要説明を受ける鳩山文部大臣



記念植樹を行う鳩山文部大臣



参議院国際問題に関する調査会(佐々木満会長)御一行が本施設を視察

— 平成4年(1992)10月 —



柳谷謙介国際協力事業団総裁が本施設を視察

— 平成5年(1993)11月 —



施設職員との懇談会

— 平成5年(1993)11月 —



坂元弘直文部事務次官が本施設を視察（大原港にて）

— 平成6年(1994)3月 —

学内ニュース

◎坂元弘直事務次官が 本学を視察

坂元弘直事務次官は、3月8日から10日までの3日間、本学を視察した。

坂元次官は、砂川恵伸学長、土屋幸雄事務局長、部局長等の出迎えを受けた後、学長室において砂川学長から大学の沿革、概要等の説明を受けた。引き続き懇談を行った後、事務局棟屋上からキャンパスの状況について説明を受けた。

二日目は、西表島にある農学部附属熱帯農学

研究施設を訪れ、新本光孝施設長から同施設の概要等の説明を受けた後、記念植樹を行った。三日目は国立沖縄青年の家を視察の予定が、しけのため船便が欠航、日程を変更し、本部町瀬底島にある熱帯海洋科学センターを訪問、高野和則主事から同センターの概要等の説明を受けた。

▶事務局棟屋上からキャンパスを眺める
(左から三人目が坂元事務次官)



▶西表島・浦内川にて



9



古見のサキシマスオウノキの板根に坂元次官を案内 — 平成6年(1994)3月 —



砂川恵伸学長が西表実験所を視察 — 平成8年(1996)5月 —



西表実験所教官と懇談を行う。



創設 20 周年記念木に施肥を行う。



遠山文部科学大臣が西表実験所を視察

遠山文部科学大臣が、11月24日沖縄県名護市に完成した「名護市国際海洋環境情報センター」の開所式に出席される目的で来沖され、多忙なスケジュールの合間をぬって、西表島にある琉球大学熱帯生物圏研究センター（全国共同利用施設）西表実験所を視察された。

遠山大臣は、実験所において藤盛センター長から実験所の概要等について説明を受けた後、相実験所長と新本教授の案内により圃場等の研究現場を視察され、その後、実験所の職員の要望に応じ和やかに職員と記念撮影を行った。



▲センターの概要の説明を受ける遠山大臣



▲和やかな雰囲気で行われた遠山大臣と職員との記念撮影



記念植樹植栽を終えた森田孟進学長 — 平成 14 年(2002)5 月 —



森田孟進学長に島内を案内する高相実験所長 — 平成 4 年(1992)5 月 —



記念植樹を行う井上元文部科学省事務次官、現在琉球大学経営協議委員

— 平成 18 年(2006)10 月 30 日 —



星砂の浜にて — 平成 18 年(2006)10 月 30 日 —

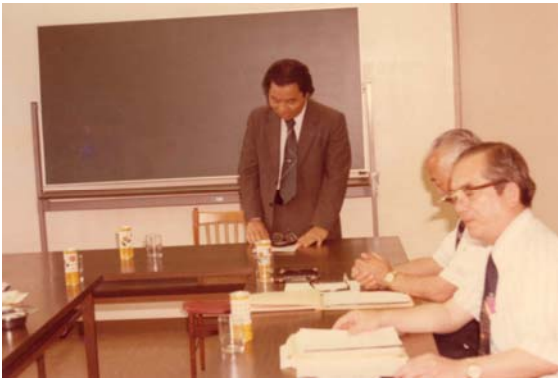


浦内川船乗り場付近にて

— 平成 18 年(2006)10 月 30 日 —

VIII 主な会議・セミナー等

1. 九州地区国立大学事務局長協議会 ― 昭和54年(1979)5月 ―



歓迎の挨拶を述べる諸見里施設長



会議中の真栄城琉大事務局長



圃場を視察する局長御一行、我謝農学部事務長（左）



記念植樹を行う真栄城事務局長

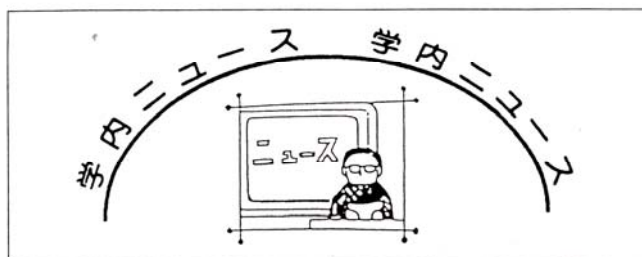


記念植樹会場へ向かう学部長ら



恩師九州大学宮島農学部長（左）
と新本主事

3. セミナー・研修



本学は、全国共同利用施設として本年度設置された熱帯生物圏研究センターの創設を記念して、11月24日、「熱帯生物圏研究の現状と展望」をテーマに国際シンポジウムを開催した。開催にあたって、砂川恵伸学長の挨拶、文部省学術国際局早田憲治研究機関課長の祝辞、続いて山里清センター長の挨拶があった。

シンポジウムは、「熱帯生物圏研究センター 瀬底実験所及び同西表実験所における研究の現状と展望」について各実験所長の報告があり、引き続いて国内研究者2人及び外国人研究者3人による講演が行われた。講演後の

総合討論では、参加者から自然環境、研究環境に恵まれた同センターへの期待と絶滅危惧種等の保存と研究等についての要望等があった。

会場には、教職員や留学生のほか、県内外の研究者及び外国人研究者など約130人の参加があった。

また、シンポジウムに先立ち、同センターの看板掛けを、仮住まいしている理学部玄関前で、砂川学長、山里センター長、高野瀬底実験所長及び新本西表実験所長により行われた。（庶務課）



▲ 祝辞を述べる文部省早田研究機関課長



▲ 看板を掛ける左から新本西表実験所長、山里センター長、砂川学長、高野瀬底実験所長



第2回西表実験所セミナー・講演会石垣島で開催
講演者、小山客員教授 — 平成8年(1996)5月 —



2001年度森林計画学会夏期セミナーを開催
— 平成13年(2001)9月19日 —



国際協力事業団（JICA）森林土壌コースの研修
— 平成2年(1990)10月 —



国際農林業協会（A I C A F）森林資源コースの研修（浦内川流域森林調査後マリウドの滝）
— 平成5年(1993)6月 —

IX 記念式典並びに祝賀会

1. 教育研究棟 1号館 — 昭和 51年(1976)5月 —



落成式典、祝辞を述べる小玉沖繩総合事務局長



第一研究室での落成祝賀会

2. 教育研究棟 2号館 — 昭和 63年(1988)5月 —



落成式出席者



式辞を述べる東江学長



式辞を述べる大屋施設長



祝辞を述べる西大舩竹富町議会議長



乾杯の音頭をとられる坂本事務局長



参加者全員による万歳三唱



祝賀会で歌っていただく平得校長先生と
那根西表島郵便局長



地元婦人会新崎さんによる舞い



琉球大学学報

第285号 (平成 4 年 3 月)



▲式辞を述べる当山清善農学部長、砂川恵伸学長(右) 及び北田憲治予算分析調査官(左)

熱帯農学研究施設創設20周年記念式典

農学部附属熱帯農学研究施設創設20周年記念式典が、2月20日(木)同施設第2研究棟講義室において、文部省を始め学内外の関係者約110人が出席して挙行された。

式典では、日越博信熱帯農学研究施設長から創設以来の経過報告があり、当山清善農学部長から「平成4年度に農学部が参加予定している鹿児島大学大学院連合農学研究科(博士課程)の教育研究の場として重要視されており、一層の努力をして、関係者の期待に添いたい。」との式辞の後、砂川恵伸学長から「食糧・資源・環境の各分野

教育研究の場として重要視

で研究を深め、熱帯・亜熱帯農学の発展、学術の国際交流を推進したい。」とあいさつがあった。

引き続き長谷川善一文部省学術国際局長(北田憲治予算分析調査官代読)、瀬戸口満沖縄管林署長及び友利哲雄竹富町長(小浜正昌助役代読)から祝辞があった。

式典終了後、記念植樹が行われ、続いて出席者全員が参加して祝賀会に移り、神山長藏沖縄県八重山支庁長の祝辞、井本由雄竹富町議会議員の乾杯で和やかな雰囲気のもとに創設20周年を祝った。



記念植樹会場へ移動



祝辞を述べる神山八重山支庁長



祝賀会会場での砂川学長等



20周年を祝い舞う職員



祝賀会会場、地域の御婦人方も多数出席された。



盛会だった祝賀会

X 学生実習

1. 昭和 57 年(1982)7 月 第 1 回熱帯農学総合実習



鳩間沖に停泊中の鶴洋丸



スキップで船浦港へ



港内のスキップ



接岸するスキップ



夕食中の学生（旧食堂棟にて）



熱帯牧草について講義中の星野教授
(1号館の講義室にて)

2. 昭和 60 年代の熱帯農学総合実習



桑園での実習、担当者は四方客員教授



パイナップル農園での実習



早朝作業の学生



早朝作業中に手なれぬカマでぐさり…。



サトウキビ畑での実習見学



土壌実習を指導する石垣技官



ボートにて浦内川軍艦岩へ



浦内川流域の森林調査



実習の終了証書を授与



実習の打ち上げパーティー



石垣島での農林水産省見学の為乗込む学生



船浦港を離岸するマリンスター

琉球大学
受付



琉球大学学報

第428号 総務部総務課
広報・情報室

2005

4



宿泊棟 (40人収容)



熱帯農学総合実習 (浦内川森林調査)

熱帯生物圏研究センター・西表実験所

西表実験所の所在する竹富町・西表島は亜熱帯海洋性気候下にあり、熱帯の北限(北緯 $24^{\circ}24'$)に位置する。島の周辺を流れる黒潮の影響を受け、年間を通して温暖で気温の変化は少ない。植物の分布からみると日本の他地域の植物相とは大きく異なり、台湾、中国南部、東南アジアと類似するといわれている。島全体がグリーンハウスの役割を果たし、熱帯の有用植物が冬でも露地で生育し、貴重な熱帯の遺伝資源がフィールドで立毛のまま保全できる日本唯一の地である。

近年、西表実験所に関する情報が国内外に伝わり、年間の利用者は延べ3000人を超え、多数の研究者、研修生、学生が訪れるようになった。このように西表実験所では学術研究はもちろん社会教育、地域貢献、国際交流にも力を注いでいる。地の利を活かした研究(生物資源、環境保全、植物生産)を推進し、熱帯圏との架け橋の役割を担いたい。

(西表実験所：新城 健)

琉球大学ホームページ <http://www.u-ryukyu.ac.jp/>

琉球大学
附属図書館
蔵書印
寄贈受付

0.429

University of the Ryukyus

May 2005



琉球大学学報

第429号 総務部総務課
広報・情報室

2005

5



西表実験所用地内ヤシ川河口のマングローブ



ヤエヤマヒルギ



オヒルギ



メヒルギ



ヒルギモドキ



ヒルギダシ

西表島のマングローブ

マングローブは熱帯・亜熱帯の河口域にみられ、汽水域の魚介類の生息地であるとともに、防風防潮林、海岸線の土砂の流失防止など、防災機能の面からも重要な役割を果たしている。西表島には我が国最大のマングローブがみられる。西表島のマングローブ構成樹種にはヤエヤマヒルギ、オヒルギ、メヒルギ、ヒルギモドキ、ヒルギダシ、マヤブシキの6種がある。熱帯生物圏研究センター西表実験所用地内でも写真のようなマングローブがみられ、そこでは国内外の多くの研究者によって生物多様性、保全・再生、資源利用などに関する調査・研究や学生の教育実習等が盛んに行われている。

[解説：金城政勝(助教授) 写真：石垣長健(技術専門職員)]

琉球大学ホームページ <http://www.u-ryukyu.ac.jp/>



琉球大学学報

第430号 総務部総務課
広報・情報室

2005

6



西表島の大見謝川の河口にて
(上は近づいて目線を下げて撮った写真、下は少し離れて目線を上げて撮った写真)

目線をかえてみませんか！

テレビのパラエティー番組などでは「カメラ目線など」の表現が頻繁に出てきて、「カメラ目線を笑いものにしています」が、目線ってとても大切なのでは！

子供たちには子供たちの目線、大人には大人が目線があります。その違いを知ることが、子供たちを理解し、彼らと一緒に会話ができることの最低条件では……。

西表島に住みはじめてみて、中央政府の目線、地方自治体の目線、島の目線、そして島の子供たちの目線、島の生き物たちの目線などがとても気にかかるようになりました。

開発にしても、保全にしても、それぞれの思惑を押し売りするのではなく、「目線をかえ、別の立場の目線で物事をとらえて欲しい」ものです。

目線をかえると、同じ場所で撮った写真だって違った風景になるのです！

(熱帯生物圏研究センター西表実験所 馬場繁幸)



琉球大学学報

 第431号 総務部総務課
 広報・情報室

2005

7



① 導入見本園



② 栽培試験区

熱帯イネ科牧草の導入と栽培

近年、沖縄県の畜産は目覚ましい発展を遂げてきた。肉用牛の飼養頭数は8万余頭（2001年）、国内では10番目である。ところが、沖縄県の草地で栽培されている牧草の殆どが東部アフリカ（一部中南米を含む）を原産とする熱帯イネ科牧草であり、在来のイネ科草の栽培は全く見られない。西表実験所では沖縄県の草地に広く適応し、家畜によく好まれ、栄養価と消化性がともに高く、安定した生産を長期にわたり達成し得る永続性に優れた草種を見つけ出すために、これまで数多くの熱帯イネ科牧草を見本園（写真①）に導入し、観察してきた。その中から有望だと思われる草種を選抜し、様々な栽培試験（写真②）を実施して沖縄県における基幹草種の選定作業を進めている。

[文：新城 健（西表実験所・助教授） 写真：水町 進（鹿大連合大学院・博士課程）]



琉球大学学報

第432号 総務部総務課
広報・情報室

2005

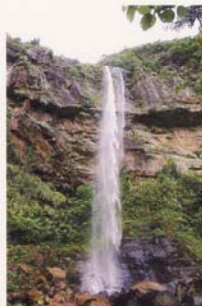
8



展望台からのマリユウドの滝



カンピレーの滝



ピナイサーラの滝

西表島の滝(マリユウドの滝、カンピレーの滝、ピナイサーラの滝)

西表島には観光スポットとなっている有名な滝がある。浦内川河口域のマングローブ林を見ながら中流の船着き場(軍艦岩)で遊覧船を降り、オオタニワタリやツルアダンなどの着生する亜熱帯照葉樹のジャングルの遊歩道を30分ほど歩くと展望台にたどり着く。展望台からは日本の滝100選に選ばれたマリユウドの滝が望める。そこから徒歩で10分、15分の大自然の中にマリユウドの滝、カンピレーの滝がある。島の方言でマリユウドとは丸いよども、カンピレーとは神々の座する場所を意味する。ピナイサーラの滝は熱帯生物圏研究センター西表実験所から遠望できる船浦湾にある。落差が約80mもある沖縄県で最も落差の大きい滝であり、干潮時には徒歩で、満潮時にはカヌーで行くことができる。ピナイは白い髭、サーラは滝を意味する。

[解説：金城政勝(助教授) 写真：石垣長健(技術専門職員)]

琉球大学ホームページ <http://www.u-ryukyu.ac.jp/>



琉球大学学報

第433号 総務部総務課
広報・情報室

2005

9



仲間川流域の
サキシマスオウノキ
板根の高さ 3.23m



山奥の
オキナワウラジロガシ
板根の高さ 3.25m

山・樹木・板根の不思議

西表島には東洋のアマゾンと呼ばれる東部の仲間川と西部の浦内川の二大河川がある。そのうち、仲間川河口から約6kmほどさかのぼった左岸のジャングルの中にサキシマスオウノキ（写真上）が生育し、観光の中心地となって訪れる人々の目を楽しませている。幹は灰褐色で、基部には根が発達しへびがくねったような珍しい板根がいくつも見られる。つい最近、奥深い山中で板根をもったオキナワウラジロガシの群落（写真下）に遭遇した。両者の板根の形状は樹種固有の遺伝的形質のためか全く異なるが、板根形成についてはまだはっきりとした解明はされていない。それにしても山奥で巨大な板根が形成されているとは、ただ驚くばかりであり不思議でならない。西表島の原生林はまだ未知の部分が多く、野生生物の宝庫として魅力にあふれている。森林調査・資源探索は今後も続くが、このような楽しみがある限り山歩き（ヤマアッチ）は止められない。

[解説：新本光孝(教授)・写真：石垣長健(技術専門職員)]

琉球大学ホームページ <http://www.u-ryukyu.ac.jp/>

編集を終えて

写真集は、私が琉球大学を定年退職するにあたって熱帯生物圏研究センター西表実験所の 35 年余の歩みを編纂したものであります。

編集内容については、本学 50 周年史写真集も踏まえつつ次の編集方針に基づいて写真の収集・選定・収集整理を行いました。

1. 西表実験所の創設以来の写真年代を追って体系的にまとめ、同実験所の創設・発展を年代と地域とのかかわりの中で、一目で分かるように構成する。
2. 時代性、記録性、客観性を重視して学術的な資料として活用できる内容にする。

写真は、実験所内に保存されているもの、個人的に撮影したものを基本にし、所内外の関係者にも広く呼びかけ収集しました。収集した写真を整理し、編集を終えてみると、少々私の「自分史」のようにもなってしまった感がするの否めないが、そのてんは定年退職に免じてお許し願いたいと思います。

平成 20 年（2008 年）3 月吉日
森林環境資源研究領域
教授 新本 光孝